

教職員の勤務状況等調査結果【令和4年12月のまとめ】

令和5年2月 群馬県教育委員会 学校人事課管理係



毎月の勤務状況調査に御協力いただきありがとうございます。令和4年12月分の勤務状況等調査の集約結果を以下の通り報告いたします。

集計結果を確認いただき、教職員の多忙化解消に向けた協議会からの「提言R5」とあわせて今後の充実した働き方の参考としていただければと思います。引き続き、働き方改革・業務改善を通して「子どもと向き合う機会の充実」を進めて参ります。



令和4年12月の状況について ー時間外在校等時間が減少していますー

■過去3年間を比較すると、令和4年は月45時間以上者の割合が全ての校種で最も少なくなっています（時間外在校等時間が短くなりました）。日没が早く、下校時間が早い学校が多いことから例年時間外在校等時間は短くなる傾向にありますが、そのような中でも今年度は更に短くなっています。

■学校規模の大小はあるものの、時間外在校等時間の全職員平均が10時間を下回った学校もあります。管理職のリーダーシップのもと、継続的な業務改善と早めの帰宅ができる雰囲気作りが校内で定着していることがうかがえます。

■一方では、同じ学校の職員間でも時間外在校等時間の長短に差がある状況も見られます。各校では、新年度を見据えた学校の体制づくりが始まる頃かと思われますが、教職員の多忙化解消に向けた協議会からの「提言R5」を参照に、更なる業務改善を進めていただければと思います。（下記リンクを参照）



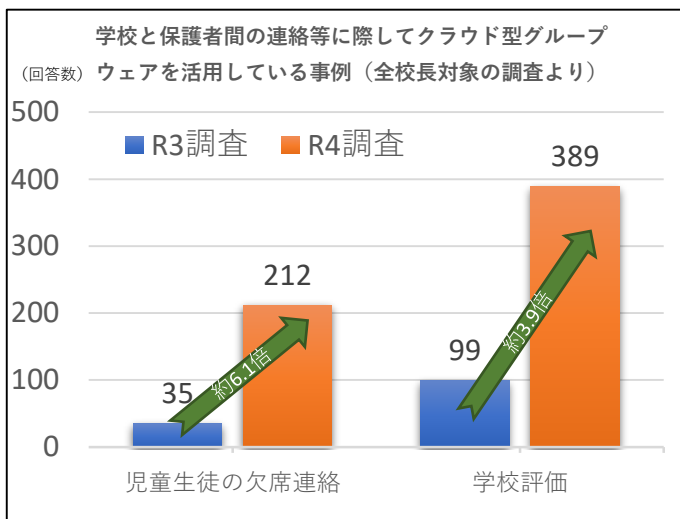
学校と保護者間の連絡手段のデジタル化が進んでいます

■「提言R5」では、教職員の様々な業務や学校行事を「廃止・縮小・ICT化」の視点で改善していくことが示されました。今回の提言では、令和4年11月に実施した業務状況等調査において「既に廃止・縮小・ICT化に取り組んでいる」または、「今後推進したい」という回答が多かった項目を中心に、提言に示されています。

■「ICT化が可能な業務例」の一つとして示された「児童生徒の欠席連絡」は、今年度多くの学校でグループウェア（アンケートフォームなど）の導入が進められており、「導入済」の回答が昨年度調査から約6.1倍となっています。（県立・市町村立学校の約40％が導入済）また、「学校評価」についても同じく昨年度から3.9倍となっており（県立・市町村立学校の約75％が導入済）、この一年間でも学校と保護者間のデジタル化が進展していることがわかります。

■児童生徒の欠席連絡をアンケートフォーム（GoogleFormsなど）に切り替えている学校からは、「朝の電話の取り次ぎが半分に減った」「教室でタブレットを持ち込みその場で出欠確認ができるようになったことで、教室でゆっくり子どもたちを迎えられるようになった」「電話を取り次ぎによる連絡漏れが少なくなった」等の意見が聞かれました。

■提言については、各校や市町村によっては既に実践済や検討中の取組があったり、地域や学校の実態によって慎重な検討を要する内容が含まれたりしていることもあるかと思いますが、子どもと向き合う時間の確保につなげるため、提言を踏まえた取組を進めていただければと思います。



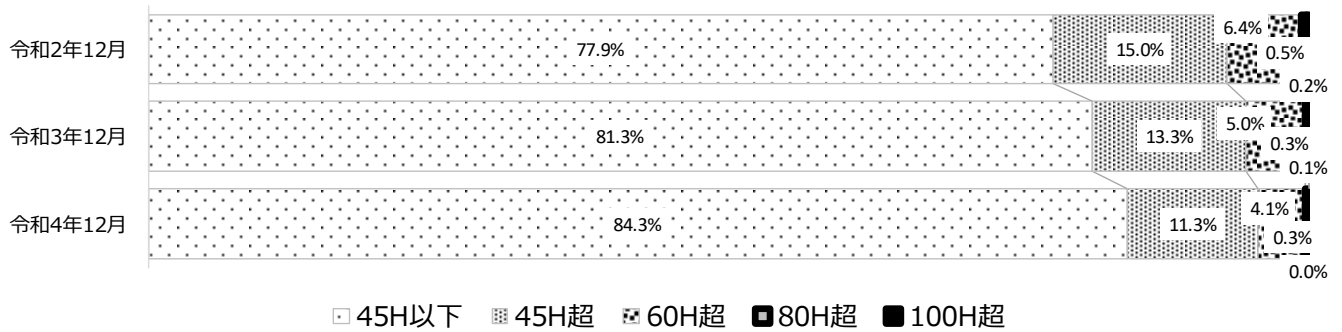
教育関連情報（令和5年1月配信）- 教育委員会 - 群馬県
ホームページ(教育委員会総務課) (pref.gunma.jp)

「提言R5」について、1月の教育関連情報（「LINE群馬県デジタル窓口からの配信」で特集されました。県ホームページでも紹介されていますので、ご覧ください。

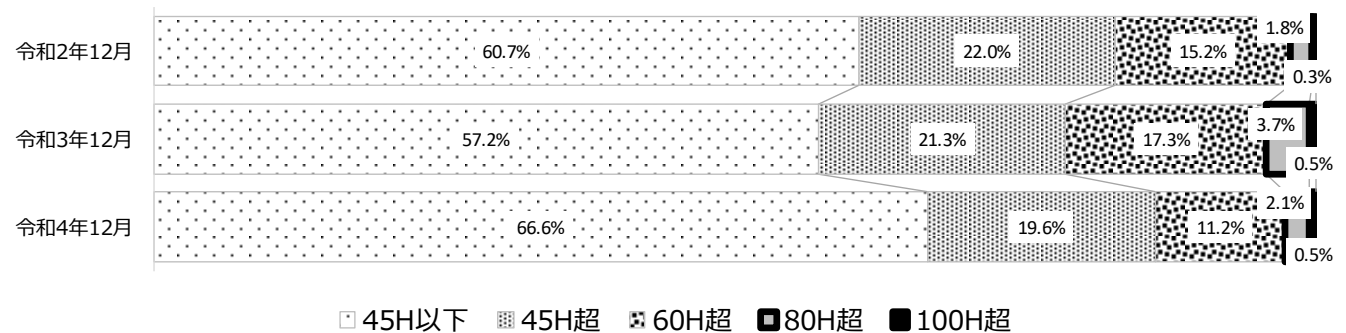
時間外在校等時間の状況【12月の経年変化】

[市町村立・県立の全校を対象とした校種別の時間外在校等時間の状況調査]

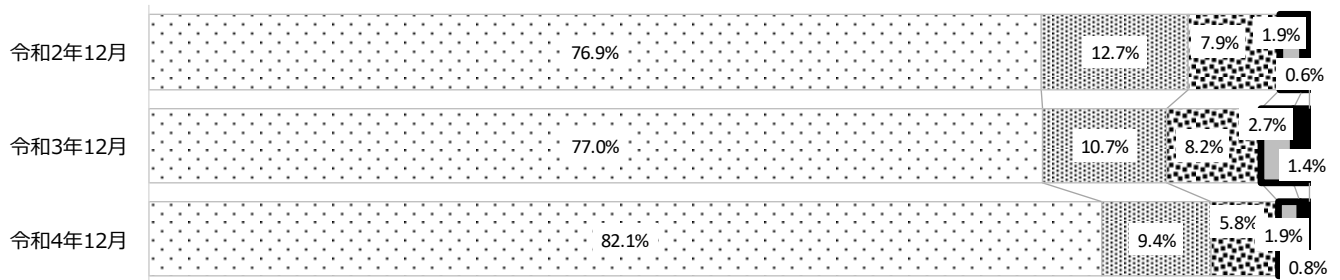
1 小学校の状況



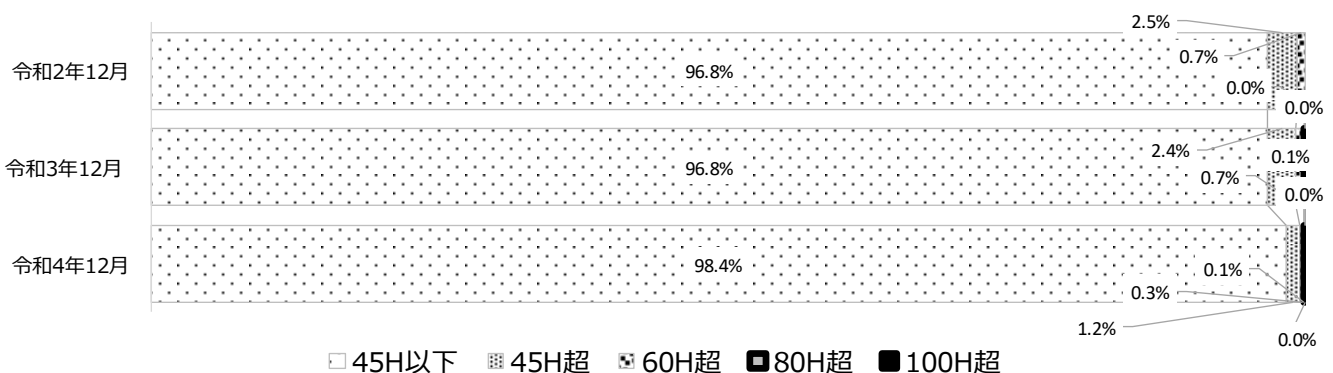
2 中学校の状況（市立の義務教育学校を含む）



3 高等学校の状況（県立・市立の中等教育学校,市立の高校を含む）



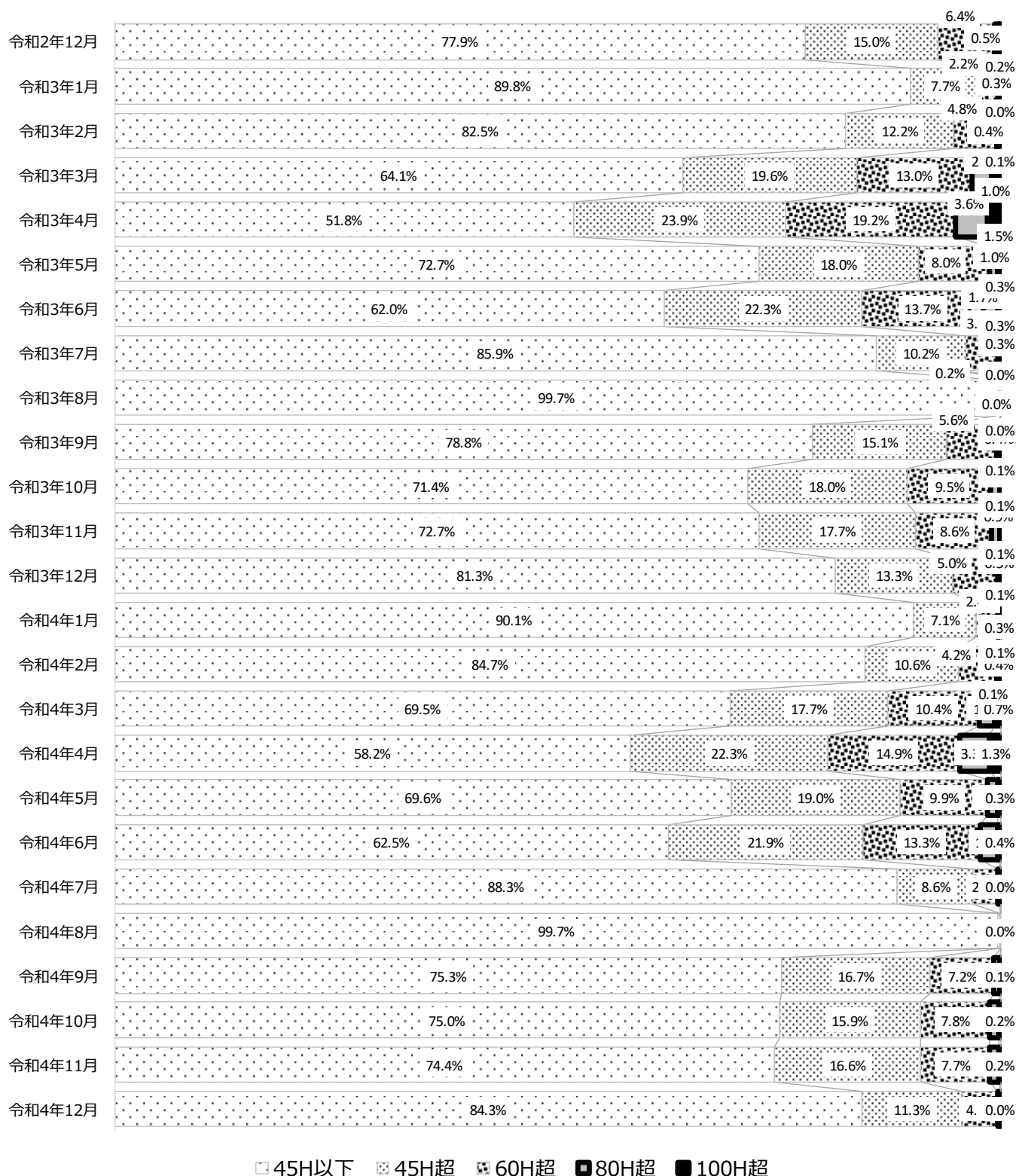
4 特別支援学校の状況（市立の特別支援学校を含む）



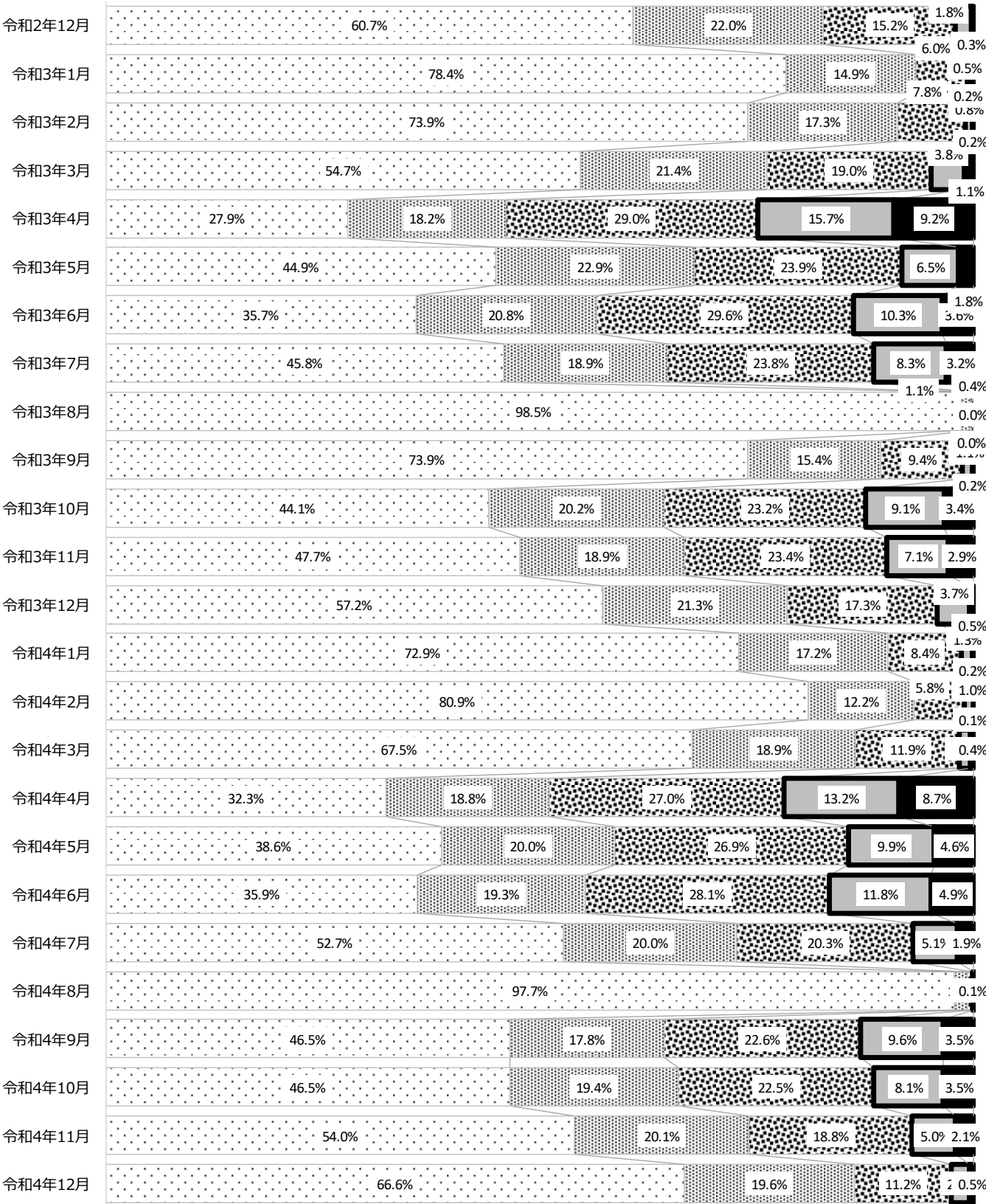
時間外在校等時間の状況【令和2年12月～】

[市町村立・県立の全校を対象とした校種別の時間外在校等時間の状況調査]

1 小学校の状況

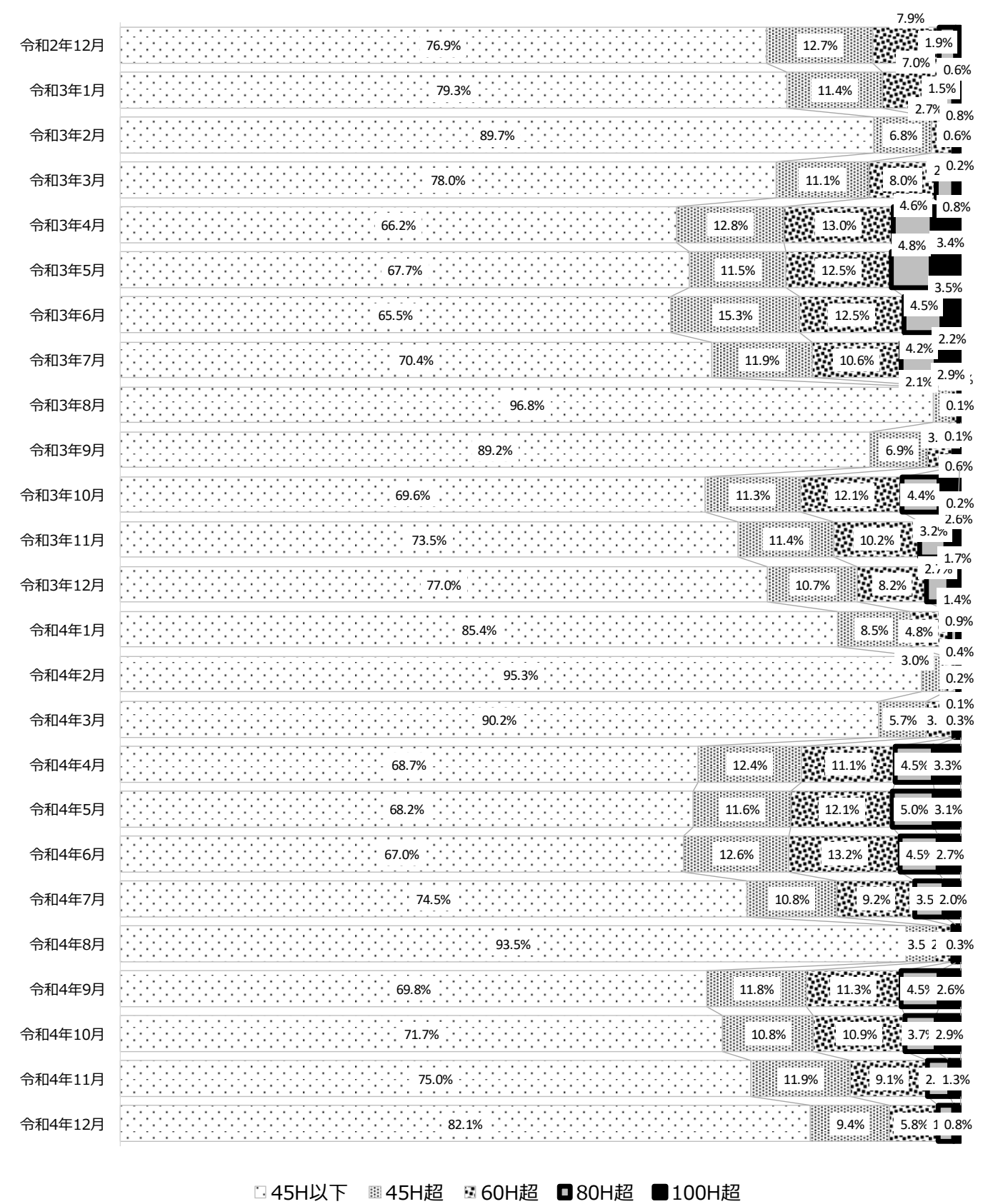


2 中学校の状況（市立の義務教育学校を含む）



45H以下 45H超 60H超 80H超 100H超

3 高等学校の状況（県立・市立の中等教育学校含む）



4 特別支援学校の状況（市立の特別支援学校を含む）

